学習内容報告書

学校名	東京都立小笠原高等学校
授業者	山本　史彬

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

海洋島である小笠原の魅力と課題

1-2.　学年

第 2 学年　第 3 学年(生徒会役員)

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

特別な活動（島嶼高校生サミット）

1-4.　単元の概要

本単元では小笠原高校生徒会役員が島嶼高校生サミットに参加し、他島の高校生との交流を通して、海洋島である小笠原の魅力と課題を発見する。単元の概要は以下の通り。

① 事前学習・事前準備（サミットに参加する前にワークシートを通して情報を整理）
② サミットにて協議・交流（他島の高校生と様々な議題について協議）
③ 振り返り・報告会（学んだことを整理し、自校で還元報告会）

1-5.　単元設定の理由・ねらい

小笠原諸島は海洋島であり、独自の自然環境・文化を有している。小笠原諸島唯一の高校である都立小笠原高等学校の生徒はこうした独自の環境下で育ってきており、本土や他島との交流の機会も少ない。ゆえに「海洋島である小笠原がどのような魅力を持ち、どのような問題を抱えているのか」という問に対して、他の環境との比較という観点から考えを深める機会が少なく、本単元を設定した。本単元を通して、島外の人々との交流を軸に「海洋島である小笠原の魅力と課題」を再発見することを目的とする。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

本単元を通して、育みたい資質・能力・態度は以下の 3 つである。

① 情報を収集、精査し、活用する能力（事前学習・事前準備）
② 豊かなコミュニケーション能力（サミットでの交流・協議）
③ 情報を発信する力（サミット後の振り返り・報告会）

1-7.　単元の展開（全 13 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	**事前学習①：島嶼高校生サミットの事前課題** 課題 （1）島・高校の魅力をできる限り書き出す　（2）伝えたい魅力を絞り、文章化する　（3）魅力を伝える方法を考える	○指導：各自でワークシートを記入し、それをもとにディスカッション。 ○評価：10 年以上生活している小笠原の魅力について再考し、文章化できているか。 ○外部連携：なし ○使用教材：島嶼高校生サミット事前課題
2	**事前学習②：サミットへ向けてのテレビ会議** 内容 顔合わせ・サミットの行程確認・事前学習（ワークシート）の内容について相互に共有	○指導：テレビ会議を通して各離島の高校と会議。 ○評価:自分たちの島の魅力を外部に発信できるか。 ○外部連携：テレビ会議参加都立高校→大島・大島海洋国際・新島・神津・三宅・八丈・小笠原 ○使用教材：島嶼高校生サミット事前課題
3 4 5 6	**島嶼高校生サミット：協議** ・議題 「自分の島の魅力をどのように発信するか」 ・協議の流れ 班別協議をし、意見交換、議題に対する（案）の立案→全体協議→成果報告会	○指導：特になし　※すべて生徒による会の進行 ○評価：特になし　※すべてのプログラム終了後に振り返り学習を行い、フィードバックをする。 ○外部連携：サミット参加校 ○使用教材：サミットのしおり
7 8 9	**島嶼高校生サミット：島内（三宅島）調査** ・調査場所 新澪池、新鼻新山・火山遊歩道・伊豆岬・旧島役所・御笏神社・三七山・ひょうたん山 ・目的 小笠原とは全く異なる自然環境や島の成り立ち、抱えている問題を実際に見て、小笠原の魅力・課題について考える手がかりを見つける。	○指導：三宅島島内の様々な場所へ赴くため、安全指導の徹底。 ○評価：特になし ○外部連携：都立三宅高等学校 ○使用教材：島内各所
10 11 12 13	**振り返りと小笠原高校にて成果報告会** ・振り返り サミットへの取り組みを 5 つの観点（協議・プレゼン・成果報告・島内調査・交流）から振り返る。それをもとに小笠原高校全校生徒に何をどのように報告し、伝えるべきか考える。 ・成果報告会 小笠原高校全校生徒を対象に、島嶼高校生サミットを通して得られた成果・課題を報告する。	○指導：振り返り学習では、サミット期間中の生徒の取り組みに対して、フィードバックをする。また、生徒が各々の反省点を見つける際に適切な助言をする。 ○評価：振り返り・自己評価シートを記入し、小笠原高校としてのサミットへの取り組みを振り返ることができているか。 ○使用教材：振り返り・自己評価シート

1-8.　単元における位置づけ

単元　13　時間中の　10, 11, 12　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

1-9.　本時の目標

・島嶼高校生サミットを通して見出した「小笠原の魅力・課題」を参加者で共有し、整理する。
・島嶼高校生サミットを通して学んだこと・小笠原の魅力・課題を小笠原高校に還元する方法を考えるきっかけにする。

1-10.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
導入 ・第三回島嶼高校生サミット　振り返り・自己評価シートの記入 ・ワークシートに記入した内容を相互に共有 生徒の反応 　生徒は他校との交流を通して様々なこと（島嶼間の違いなど）を感じていた。	・指導：2 日間の行程を終え、生徒は活動を落ち着いて振り返る時間がとれていない。ゆえにサミット終了後にワークシートを記入し、まずはサミットと自己との関わりについて振り返る。振り返った内容を生徒同士で共有し、サミットに参加した仲間が何をどのように感じていたか知ってもらう。 ・評価：ワークシート・観察
展開 ・小笠原高校としての自校評価を決める。 　5 つの観点（協議・成果報告会・他校との交流・島内調査・プレゼン）について、達成度を五段階の評価で決める。また、サミットを通して気づいた「小笠原の魅力・課題」について生徒同士で共有をする。 生徒の反応 　自己の評価とチームでの評価の乖離に悩む生徒もいた。小笠原高校としての総合評価は 3 に決まる。	・指導：導入にて共有した意見・感想をもとに、チーム小笠原高校として達成度を生徒たちが議論をして決める。教師は必要に応じて適切な発問をし、ディスカッションが正しい方向に進むよう支援する。 ・評価：発問・観察
まとめ ・小笠原高校全校生徒に何をどのように還元したら良いのか話し合う。	・指導：展開にて整理した「小笠原の魅力・課題」をどのような方法で自校に還元するべきなのか案を出し合い、次への導入につなげる。

2.　今回の活動の自己評価

ここでは学習後の生徒の変容と活動の自己評価について記述する。

・生徒の変容

　小笠原諸島はその生物多様性と自然の貴重さから世界自然遺産に登録されているが、本校生徒が小笠原の貴重性を島の外から客観的に考え直す機会が少ない。島嶼高校生サミットに参加することで、自分の島では当たり前と思っていたものが実はそうでなはいことに気づくことができたようだ。そして、外部との交流によって気づいた小笠原の魅力を守るためには何をするべきなのか・何が課題なのかを考えることの重要性にまでたどり着いていた。

・本活動の自己評価

　生徒に活動の自己評価をしてもらった以上、教員も本学習への自己評価を同じようにする必要があると考える。5 つの観点（協議・成果報告会・他校との交流・島内調査・プレゼン）を五段階評価すると、協議：2、成果報告会：2、他校との交流：4、島内調査：3、プレゼンテーション 5 となり総合評価は 3.2 となった。

評価の基準

例）プレゼンテーション　※生徒が以下のどのレベルで達成できたかに応じて自己評価の数値を決める。

評価 5：島の内外の生徒に必要な情報を吟味し、的確にかつ工夫を凝らして伝えることができた。

評価 4：島の内外の生徒に必要な情報を吟味し、的確に伝えることができた。

評価 3：島の内外の生徒に必要な情報を吟味し、伝えることができた。

評価 2：島の内外の生徒に、サミットについて必要な情報を吟味し行ったことを伝えることができた。

評価 1：島の内外の生徒に、サミットについて行ったことを伝えることができた。

3.　今後の課題

以下の 2 点を主な今後の課題として挙げる。

1　小笠原高校内での課題意識の共有：本校からのサミット参加者は 5 人であり、見つけた魅力・課題についていかに全体波及をさせていくかである。定期的に海洋等である小笠原について考える学びの機会を今後も提供していく必要がある。

2　島外とのつながりの継続：今回の学びの最大の強みは「小笠原について外の視点から考える」ことであった。地理的に隔絶された小笠原高校が島外の学校等とつながりをもち、交流を重ねていくことが小笠原のこれからについて客観的に考える際に必要となる。

4.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし